

「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」

事業報告書

学校 番号	6 4 0 1	学校名	華陽フロンティア高等学校	課程	定時制
----------	---------	-----	--------------	----	-----

事業の名称	「いつでも、どこでも、元気に、いろいろ」学べる学校づくり
-------	------------------------------

1 3年間の事業の概要

様々な課題を抱えながら本校を志望し入学してきた生徒が、社会に出てから求められる力（基礎学力、社会性、協調性、コミュニケーション能力、他者理解能力など）を、スモールステップを踏みながら身に付けて卒業を目指すことができるような教育課程を研究し、作成した。

- (1) 生徒の実態に応じた半期単位認定制度の導入
- (2) 社会に出て通用する教養を身に付けるための学校設定科目「基礎教養」及び「文書表現」の実施
- (3) 学校設定科目「演劇表現」の充実、及び「総合的な学習の時間」における「演劇表現」の手法を取り入れたソーシャルスキルトレーニングの実施

2 3年間の取組（実施した内容）

- (1) 生徒の実態に応じた半期単位認定制度の導入
 - ① 半期単位認定制度の導入に向けてのカリキュラムの設定 (H25, H26)
 - ② 情報収集・研究に向けての他県導入校（7校）への視察 (H25)
 - ③ 「半期単位認定研究委員会」の設置、及び本校独自の半期単位認定制度の研究 (H25, H26)
 - ④ 職員研修会（「半期単位認定制度」について）の実施 (H26)
 - ⑤ 半期単位認定制度の導入 (H27)

平成26年度までは通年で単位認定をしていたが、平成27年度から前期・後期に分けて、単位を認定する半期認定制度を1年次生から導入した。これにより、生徒はスモールステップを踏みながら着実に単位を修得することが可能になった。この制度の導入に伴って後期転入学が可能となり、定通併修制度を利用して短い在籍期間で卒業を目指すことが可能になった。

- (2) 社会に出て通用する教養を身に付けるための学校設定科目「基礎教養」及び「文書表現」の実施

義務教育段階での国語、算数・数学、英語の基礎基本の学習内容を学び直す機会を与えることを目標とした「基礎教養」、また卒業年次生に対して卒業後社会人として生きていくうえで役立つ文書表現力の育成と一般常識・国語常識を身に付けさせることを目的とした「文書表現」を実施した。

(3) 学校設定科目「演劇表現」の充実、及び「総合的な学習の時間」における「演劇表現」の手法を取り入れたソーシャルスキルトレーニングの実施

ソーシャルスキルトレーニングは、生徒たちが元気で安心して学校生活を送れるように、よりよい人間関係を形成する力を育成するために計画・実施した。

①職員研修会の実施

- ・「演劇表現」について (H25)



- ・「ソーシャルスキルトレーニング (S S T)」について (H26, H27)



②ソーシャルスキルの育成のための「総合的な学習の時間」と「演劇表現」について、情報収集・研究に向けての他県導入校（6校）への視察 (H26)

③ソーシャルスキルの育成のための体系的プログラムを作成するため、「S S T 研究委員会」において、研究を行った。(H26)

- ・2名の教員が、東濃フロンティア高校で行われた職員研修会（ライオンズクエスト）に参加し、S S Tの授業を体験した。(H26)
- ・平成26年度後期にS S Tを取り入れた授業や総合的な学習の時間を実践し、次年度実施に向けての布石となった。

④演劇表現発表会の参観 (H25, H26, H27)

- ・ステージ上で生き生きと発表を行う生徒の様子や、発表後の達成感に満ちた生徒の表情を実際に見ることで、「演劇表現」の成果や意義について再確認した。

⑤平成27年度後期より「総合的な学習の時間」におけるソーシャルスキルトレーニングの実施

ア S S T 推進委員会の立ち上げ

- ・前年度の「S S T 研究委員会」から平成27年度は「S S T 推進委員会」に名称を変更して実施
- ・第1回S S T 推進委員会 年間実施計画、S S T 実施計画作成の依頼等
- ・第2回S S T 推進委員会 これまでの研修内容の報告、後期の取組について
- ・第3回S S T 推進委員会 1年間の反省と来年度への課題

イ 「演劇表現」の手法を取り入れたコミュニケーション能力やソーシャルスキル育成のための授業

- ・「演劇表現」の特別講師を招き、コミュニケーション能力やソーシャルスキル育成を目的としたプログラムを「総合的な学習の時間」を利用して1年次生対象に実施。

ゲームに学ぶ 仲間への理解

一年生を対象に、同校の非常勤講師で岐阜市の「劇団シヤブシアサキ」の団員岡浩さん(向)らが指導。およそ一時間で二つのゲームを体験した。

一つは、生徒らが輪になり、右隣の人の水鉄砲やメガホン、ボールなど、大きさや形の異なるものを投げるゲーム。初めはうまく受け渡しができず、あちこちに床に落



高校生が体を動かさずゲームを通じて他人とのコミュニケーションの取り方などを学ぶ授業が、岐阜市の華陽フロンティア高校(同市西郷)で三日に行われた。同校は小中学校のときに不登校を経験した生徒が多いことから「友人関係に困ることなく、夏休み明けの学校生活も楽しめるように」と、今年初めて開いた。(田井勇輝)

(中日新聞平成27年9月4日付掲載)

ウ 平成27年度後期よりソーシャルスキルトレーニングの実施

SST推進委員会での計画、職員研修会でのSSTの理解・体験を踏まえて、各年次で話し合い、それぞれの年次で身に付けさせたいスキルを設定した。また、それぞれのスキルを身に付けるための授業を計画・実践した。

・各年次において身に付けさせたいスキル

1年次	①人の話を聴くスキル ②話をするスキル ③対人関係を形成するスキル
2年次	①人の話を聴くスキル ②友人と協力するスキル ③計画を立てるスキル ④対人関係を形成するスキル ⑤気持ちや考えを伝えるスキル
3年次	①自分の気持ちや考えを伝えるスキル ②状況を判断して対応するスキル ③支援を求める方法を考えるスキル ④人間関係を形成するスキル
4年次	①キャリアプランニングをするスキル ②協力するスキル ③自己表現するスキル



平成27年11月16日 (1年次)



平成27年10月8日 (2年次I・II部)



平成27年11月16日 (4年次)

エ SSTで学んだソーシャルスキルを学校行事で実践

後期から実施したSSTの授業の中で学んだソーシャルスキルを以下の行事で実践した。

- 1月7日(木) 進路講演会(1・2年次) : 人の話を聞くスキル
- 1月14日(木) ビジネスマナー講座(4年次) : キャリアプランニングするスキル
- 1月21日(木) 消費者教育講座(3年次) : 状況を判断して対応するスキル
- 1月28日(木) 国際理解教育(2年次) : 対人関係を形成するスキル
- 3月2日(水) 国際理解教育(1年次) : 対人関係を形成するスキル

3 成果の分析

(1) 生徒の実態に応じた半期単位認定制度の導入

◎スモールステップを踏みながら着実に単位を修得することが可能になった。

- 通年で単位を認定していた昨年度までは、1年間に渡って授業に出続けなければ単位を修得できなかったが、今年度からは半期ごとの単位認定となったため、半年間というスモールステップで単位を修得できるようになり、授業を続けることができるようになった。
- また、特殊履修の対象生徒の多くが前年度未履修となった単位を修得することができた。

【関連資料】

・年度末時点での昨年度1年次との比較

		平成26年度			平成27年度		
		I部	II部	III部	I部	II部	III部
	入学者数	80	78	28	80	80	38
中学時	長欠者数	85			106		
	%	45.7%			53.5%		
高校	1年次生徒数	202			204		
	1年次長欠者数	39			29		
	%	19.3%			14.2%		
比較		-26.4%			-39.3%		

※中学時の長欠者は、中学3年間において年間30日以上欠席がある者。

※高校1年次の長欠者は、年間30日以上欠席がある者。

・特殊履修の生徒の年度末単位習得状況

2年次以上の該当生徒は10名。そのうち、単位を少なくとも1単位以上修得した生徒は9名(90%)。

(2) 社会に出て通用する教養を身に付けるための学校設定科目「基礎教養」及び「文書表現」の実施

◎義務教育段階での国数英の基礎基本の学び直し（基礎教養）と文書表現力の育成と一般常識・国語常識を身に付ける（文書表現）ことを目標として実施した。

アンケート結果より

- ・漢字について知識や書き順の説明が分かりやすくよく理解できます。(国語)
- ・終わった人への次の指示があるので暇になる時間がなくて良い。(国語)
- ・スクリーンを使った授業がとても面白くて分かりやすい。(英語)
- ・英語についての豆知識を教えてくださいるので暇にならない。(英語)
- ・細かい説明を毎回してくれるので助かります。(数学)
- ・プリントをやるので自己目標を立てて取り組むことができます。(数学)
- ・「話し言葉」と「書き言葉」が区別できるようになった。(文書表現)
- ・履歴書や志望理由書の書き方が分かるようになった。(文書表現)
- ・手紙の書き方やお礼状の書き方が少し分かるようになった。(文書表現)

◎「演劇表現」・SSTの授業を通して生徒たちのコミュニケーション能力を向上させ、元気で安心して学校生活を送り、よりよい人間関係を形成することに寄与した。

- 「演劇表現」の授業ではもちろん、昨年度までは演劇表現の担当者に限られていたSSTの手法を全教員が学ぶことができ、「総合的な学習の時間」を利用して、各担任がSSTの授業を生徒たちに行うことができた。
- 小学校・中学校時代に様々な困難を抱えていた生徒たちが「演劇表現」・「総合的な学習の時間」の中でのSSTの授業を通して、人との触れ合いを大切にし、よりよい人間関係を作ることができた。

第3種郵便物認可

岐阜

早

進路や友情テーマに生き生き



堂々とした演技を披露し、学習の成果を発表する生徒＝岐阜市西郷、華陽フロンティア高校

発表会では、1人1、2演目ずつ計9編の短編作品に挑戦。進路、友情、離婚、リストラなどをテーマに堂々と演技を披露した。「俺の屍を越えていけ」に出演した林伊

同校では、「コミュニケーション能力の向上を目的に、2005年から選択科目「演劇表現」を3年生に開講している。本年度は168人中48人が受講。岐阜を拠点に活動する劇団員岡浩之さん(45)劇団ジャブジャブサーキット、わくわく玉さん(57)劇団ラッキ一・キャッツの2人を講師に招き、発声練習などに取り組んでいた。

華陽フロンティア高生「学んだことを糧に」

岐阜市西郷、華陽フロンティア高校定期課程の3年生が出演する演劇発表会が同校で開かれ、生徒が思いついた掛け合いや滑らかなせりふ回しで表情豊かに役を演じ、観客を魅了させた。(生駒美江)

絆の演劇、掛け合い絶妙

緒さん(18)は「せりふのミスをフォローし合ったり、アイコンタクトでタイミングを取ったりし、会話のキヤッチボールにも気を配るようになった。学んだことを社会に出生かしたい」と話していた。

富司に抱き上げられながら、願いを込めて書いた絵馬を奉納する園児＝岐阜市八代、方興津神社



(岐阜新聞 平成28年2月23日付掲載)

4 課題と今後の対応

- ◎後期転入学者に関わる内規の策定および定通併修の効果的な活用方法の研究
 - ◎半期単位認定制度におけるメリット・デメリットの検証
 - ◎S S Tを取り入れたことによる生徒のソーシャルスキルの獲得の程度、学校や学級内での適応の状態を明らかにし、把握するための分析方法の研究
- S S Tを取り入れたことによる生徒のソーシャルスキルの獲得の程度が図れるように事前・事後アンケートを作成・実施し、その結果を数値化し、変化が分析できるように分析方法も研究し、工夫していく。
- ◎S S Tによるソーシャルスキルの育成をいかにキャリア教育へ繋げていくかの研究。
- 来年度は年次ごとの横の系統性と1年次から4年次までの縦の系統性を明確にしながら学校全体としてつながりを持たせられるように年度当初からS S Tを策定していく。そのつながりとキャリア教育関連行事等をうまく繋げていくことができるように検討していく。

5 平成28年度以降も継続する取組

- ◎半期単位認定制度を新1年次と新2年次で実施。
- ◎中学時不登校調査の割合と1年後の長欠者の割合との比較と検証
- ◎新たに導入した学校設定科目「基礎教養」と「文書表現」を継続。
- ◎平成27年度後期から実施したソーシャルスキルトレーニングを継続。
 - ・「総合的な学習の時間」だけでなく、通常授業の中にもS S Tの考え方を組み込んでいきたい。
 - ・各教科、HRで利用できる具体的なスキルの指標を作成し、全教科、全校で横断的に使用できるようにする。（教員も見通しを持った授業内容を展開でき、指導案等にも盛り込むことができる）
 - ・分析方法や分析結果などを全職員で共有できるような研修を設定していく必要がある。

6 成果の普及（予定を含む）

- ◎年次通信で各年次のS S Tの活動の進行状況などを盛り込んだり、ホームページに活動を取り上げたりすることで保護者や中学生、他の学校などへの広報活動を充実させる。

7 自校の成果を他校が活用する場合の留意点等

- ◎写真については、生徒から同意を得ていますが、この報告以外に使用する場合には本校に問い合わせをお願いいたします。
(※生徒本人に確認をして使用不可の場合については、使用しないでください。)